

表題 大学とNPO、市民のパートナーシップを通じた、ローカルSDGsの実践と可視化

宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センターでは、気候危機などのグローバル課題や多文化共生などのグローバル問題に、「多文化公共圏(=多様なアクターが自由闊達に議論し合意形成を行うことができる場所)」の形成を通じて対応することをめざしています。

センター事業のうち、UU3S(宇大学生SDGs解決)プロジェクトは、気候危機、生態系劣化や里山荒廃、持続可能なエネルギーへのアクセス、少子高齢化など、複雑に絡みあう諸問題の「同時解決」に資するローカルSDGs(地域循環共生圏)を面的に広げることが念頭においた、研究・教育・地域貢献の三位一体事業です。同事業では、大学とNPO、市民などとのパートナーシップ(=多文化公共圏)を創出し、①持続可能なエネルギー教育、②自然由来の解決法(里山保全活動、市民農園など)、③SDGs関連の映画上映会の3分野で実践や相互学習を行い、問題構造の把握や具体的な行動の選択肢を広げるための、情報の見える化や発信を行っています。アクションリサーチの一つと位置付けられ、カーボンニュートラルな社会への持続可能な社会変革(移行)を底上げする効果をめざしています。



公開セミナーでは、メガソーラーだけでなく多様な再エネ、省エネのポテンシャルを、学生が公式データを駆使して明瞭に説明しました。NPOや行政、企業の方々も参加し、熱心に聞いていました。

2021年度末には、NPOとともに、市内初となる「宇都宮の持続可能なエネルギー驚きの再生可能エネルギーのポテンシャル」報告書を公表しました。公開セミナーには100人近くの学生や市民が集い、同報告書は市長や市担当課等にも提出され、好評を得ました。メディアや県議会でも取り上げられました。



報告書作成にあたり、NPOのエネルギー専門家たちとデータを吟味し施設見学も行い、話し合いを重ねて、まとめあげました。



NPOや市民と一緒に里山保全活動を実践し、里山の多面的効果を実感するとともに、宅地開発やメガソーラーに脅かされ里山が衰退していることなどの課題も再発見しました。



NPOによる小中学生向けの再エネ出前授業の学生ボランティアたち。学生や保護者の関心をかめる効果も大きいのですが、再エネ普及に向けたガバナンス状の課題も見えてきました。

ローカルSDGsの実践と可視化



2020年度よりオンラインで重ねてSDGs映画会を開催してきました。2021年11月は、宇都宮創造都市研究センターと田川ブリッジシアターにて初のオンライン映画会『バレンタイン一揆』を開催。冬場の野外でしたが、ホットな空間になりました。



参考URL

- ・多文化公共圏センターHP <https://cmpps.utsunomiya-u.ac.jp>
- ・UU3SプロジェクトHP <https://cmpps.utsunomiya-u.ac.jp/uu3s-project/>